

(様式6)

〔認知症対応型共同生活介護用〕

## 1. 第三者評価結果概要表

作成日 平成 19年 6月 18日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2870700800		
法人名	(有)日本健康管理システム		
事業所名	グループホームたんぽぽ		
所在地	〒654-0081 神戸市須磨区高倉台6-14-20 (電話) 078-731-1116		
評価機関名	特定非営利活動法人 福祉市民ネット・川西		
所在地	〒666-0016 川西市中央町8-8-104		
訪問調査日	2007年4月17日	評価確定日	2007年6月18日

【情報提供票より 平成 19年 4月 7日

## (1) 組織概要

開設年月日	平成 14年 11月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 1 人, 非常勤 17 人, 常勤換算6.2人	

## (2) 建物概要

建物構造	鉄筋	造り
	2 階建ての	~1・2 階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	200 円	昼食 350 円
	夕食	350 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 1,000 円		

## (4) 利用者の概要(4月7日 現在)

利用者人数	17 名	男性 3 名	女性 14 名
要介護 1	3名	要介護 2	6名
要介護 3	3名	要介護 4	2名
要介護 5	1名	要支援 2	0名
年齢	平均 80 歳	最低 67 歳	最高 85 歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	野村海浜病院
---------	--------

## 【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

女子学生寮を再利用したグループホームのため、一部設備や機能的に不適切なところもあるが、職員のきめ細かい配慮や努力で補ない、利用者本位の生活の実現に努めている。笑顔でゆっくり、常に一緒にをモットーに努力している。ホームの努力の積み重ねにより、地元自治会の理解と協力を得る交流が進展つつある。今後は、地域の福祉拠点としての役割を担い地域住民と気軽にふれあい、協力して地域交流ホームとしての発展を期待したい。

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目: 第三者4)
	・トイレの構造上の危険については、職員の声かけや見守りで対応しつつトイレそのものを改修することで改善した。入浴時には、すべり止めマットを置き、職員2人で介助することで対応している。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目: 第三者4)
重点項目	・ユニットごとに担当スタッフで項目を検討しながら取り組んできた。その過程で法人代表者、管理者、職員が個々の理解や認識をすり合わせ、共有する機会となった。さらに質の改善に向けての前向きな姿勢での取り組みが望まれる。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目: 第三者4, 5, 6)
重点項目	・地域の自治会の正副会長の積極的な参加により、認知症の理解と協力が得られやすい環境である。入居者及び家族の意見交換の場であり、相互に情報交換できる貴重な交流の機会となっている。さらに地域包括支援センターや社協からの助言やアドバイスを得ながら、今後は行政担当者も加えて協働することが望まれる。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目: 第三者7, 8)
重点項目	・来訪の多い家族への対応はしやすいが、少ない家族への対応には、より細やかな個別の工夫が望まれる。共同生活を営む職員は入居者との馴染みの関係づくりが重要であるため、やむをえない職員の異動の折には特に入居者の立場にたった配慮が求められる。日ごろの職員の丁寧な声かけや気配りがより必要と思われる。
	日常生活における地域との連携(関連項目: 第三者3)
重点項目	・地域との関係性ができ、自治会の協力も得られたことはこれまでの努力の成果であろう。ホームを開放し、利用してもらうことで入居者自身も地域行事へ参加しやすく、相互の交流の機会となっている。これからは、ホームを地域活動の拠点としながら、ともに支えあう交流ができるよう期待したい。

## 2. 第三者評価結果票

第 三 者	自 己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	・ホームの理念をベースに、特に入居者のできることにしたいことを職員がゆっくり見守っていくことを重視し、フロアごとに職員が中心となって検討作成中である。		・ホームが地域の一員であると認められてきたので、入居者が地域の中でレクリエーションを中心にに関わりながら、楽しめる支援を目指している。職員の積極的、前向きな取り組みを期待したい。
2	2	理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	・職員との接触は、ゆっくりを心がけている。特に一人ひとりのペースに沿ったコミュニケーション能力を高めていく努力をしている。個別記録は、普段の生活の中から実践の経緯、観察の事実を正確に記述している。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	・ホームの談話室を自治会の集会に開放することで情報収集を兼ねた交流の場としている。地区内の散歩を兼ねたゴミ拾い等、ホームとして参加しやすい関わり方を工夫し努めている。		・夜間行事は参加しにくい、昼間の行事には出来るだけ参加していく姿勢でいる。自治会の「一人ではできなくてもまわりの人材を利用していく」というアドバイスを受け協力を得ている。
4	7	評価の意義の理解と活用  運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	・自己評価は、職員がユニットごとに取り組み実施している。 前回の第三者評価での排泄時の問題については、トイレ改修、改善が行われた。入浴時の危険防止策としては、すべり止めマットを置きスタッフ2人で対応する改善がなされた。		

第三者	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・平成18年4月から9月までで3回開催された。自治会の正副会長も参加し、次回からは民生委員の参加も予定されている。		・ホームの課題を、地域の問題と捉え自治会とも話し合いながら協力しあえる関係性ができている。参加家族にとっては、情報を得ることができ、喜ばれている。
6	9	市町との連携  事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	・運営推進会議には地域包括支援センター職員は参加しているが、行政担当者との行き来はこれまではない。		・自治会も含めた地域の人たちの協力の下、行政担当者と交流する機会を持つ取り組みを期待したい。
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	家族等への報告  事業所での利用者の暮らし方や健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	・面会時には、金銭管理の報告や日々の様子を伝えているが、来訪できない家族には月初めに手紙や電話で個別に知らせしている。		・面会に来られない家族への個別の情報提供の方法に、さらに細やかな配慮が望まれる。
8	15	運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・フロアーごとのお楽しみ会や、運営推進会議等を利用した茶話会で話し合う機会や意見を出しやすい場作りに努めている。		・家族の立場にたって、積極的に聞く努力を続けると同時に、運営推進会議のより積極的な家族参加を促す工夫が望まれる。
9	18	職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	・管理者も含め職員の異動は最小限に抑えている。異動があった場合は、徐々に馴染むよう引継ぎの配慮にも努めている。		

第三者	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>・定期的に研修参加への呼びかけ、推薦をしている。母体法人としても社員を増やし、育成していく姿勢を示している。</p>		<p>法人内での内部研修の充実が求められる。また毎日の実践の中でOJTへの意識的な取り組みが期待される。</p>
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>・同地域内でのグループホームとの連絡会や、法人内グループホームの会合はあるが、管理者のみの交流に終わっており、職員も含めたものになっていない。</p>		<p>・職員も含めたホームとしてのネットワーク作りに向けた取り組みが期待される。</p>
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>・契約前や入居前には、行事やおやつの時間など参加しやすい時間帯を見計らい、見学も兼ねいっしょに過ごす時間を作っている。雰囲気慣れてもらうことや馴染みの関係づくりができるよう工夫している。</p>		<p>・お試し期間としてのショートステイが利用できるよう、母体法人とも必要に応じて協議していく予定でいる。</p>
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>・些細なことでも一緒にやるという姿勢で取り組んでいる。その人のやりたいことをしてあげるのではなく、ともに行動するという関係を築くよう努力している。</p>		

第三者	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>・常に本人はどうかという視点でケアしているが、意思の確認が困難な人には十分に把握できているとはいいいがたい。</p>		<p>・その時々での表情や行動から総合的に判断して、本人の希望にできるだけ添った支援ができる努力を引き続き望みたい。</p>
<b>2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>・日々の観察、記録を最優先に、家族や往診医と相談しながら本人主体の計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>・定期的なプランの見直しは、職員を中心に往診医とも相談している。必要な随時の見直しは不十分である。</p>		<p>・利用者の身体的状況に即した随時の見直しについて、早急に対応が望まれる。</p>
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>・事業所の多機能性を活かした、共同生活介護の支援がさらに望まれる。</p>		<p>・管理者が看護師であり、往診などの医療連携体制が出来ている。その体制を活かし、自宅で暮らす認知症の利用者に、デイサービス、ショートステイ等のサービスの積極的検討を期待したい。</p>

第三者	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	かかりつけ医の受診支援  利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・ 本人と家族の同意のもとに、事務所の往診医が健康管理のため月二回往診、定期外でも体調不良があれば処置している。利用者の身体の状態を把握し、24時間連絡体制もできていて、事業所とも信頼関係にある。		・ 信頼関係で結ばれているかかりつけ医があることは、利用者にとって安心な生活の保障となる。今後とも良い関係を保って欲しい。
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	・ 「看取り介護に関する指針」を法人で作成、現在もさらに実情にあった指針の改善に努力している。		・ 今後利用者の重度化は避けられず看取りの大切さは増していく。その場において、利用者や家族ともよく話し合い、安心と信頼の出来る「看取り指針」に期待したい。
<b>・ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	・ 個人の尊厳は大切に、利用者の情報を外部には一切洩らさない。個人記録は個別に保管し、個人情報は守られている。		・ 特に利用者の誇りを傷つけるような言葉は使わない。プライバシーに配慮した声掛けを行うなど、これからも心のこもった支援を望みたい。
21	52	日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・ 利用者のペースで生活が送れるようなサポートを心かけているが、職員は忙しく介護者の都合に任せたケアになることもある。		・ 時間に追われる仕事なので、気持ちとは裏腹なケアになることもありうるが、各々のペースを尊重するよう努めて欲しい。

第三者	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・母体法人から毎日食材が配達されている。そのため献立は決まっているが、食材の調理味付けは各ユニットで行われているので、参加できる方には手伝ってもらっている。		・母体法人から毎日食材が配達されている。そのため献立は決まっているが、食材の調理味付けは各ユニットで行われているので、参加できる方には手伝ってもらっている
23	57	入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	・浴槽が狭く深いため、一人での入浴は困難と思われる。バスボードや滑り止めで工夫されているが、利用者の状態への配慮もあり二人で介助されている。		・ハード面での改善は望みにくいだが、入浴時間は利用者の希望に合わせる工夫と努力を期待したい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	・散歩や買い物の外出、風船バレーにラジオ体操など、継続性のある楽しみごとで体を動かす工夫をしている。		・書道や縫い物など、得意としていた利用者も加齢に加えて意欲も低下している。あまり無理の無い歌唱などに切り替え、楽しい時間が持てるよう支援している。
25	61	日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	・外出には職員が付き添い、日用品やおやつなどの買い物に出かけたり、天気の良い日を選んで散歩している。施設の中だけで過ごすのではなく、戸外で過ごす時間に気を配っている。		・福祉専門学校の学生が、ボランティアとして外出の手伝いをしてくれることになった。12時から16時までを外出の時間に当てている。また、通院のための外出には、家族の協力を得ている。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	・玄関は施錠し、センサーによるチェックも行われている。利用者の安全を守ることと、不審者に対する用心のためである。		・施錠することに対して職員は、施錠のない施設を目指したいと望んでいる。拘束された生活が日常とはならないよう、職員間で話し合い、必要ない施錠はおこなわないよう努力することに期待したい。

第三者	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	・年4回夜間想定消防訓練を行っている。今後は地域からの協力を得たいと思っている。		・災害時の連絡網を整備している。年2回の消防防災訓練と利用者参加の避難訓練を行っている。今後は自治会の協力を得る努力に期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・食事量や飲水量は、各利用者の体調に合わせた適量を摂ってもらえるよう配慮している。		・お茶は利用者に好きなだけ飲んでもらって居るが、水分摂取量は、ペットボトル3本分を一日の目安としている。特に入浴前や外出後には水分を取るよう支援している。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・全体に広々としてゆったり過ごせる空間作りが来ている。居間に長いすが置かれ、カラオケを楽しむ小グループもあるが音量は絞られている。山が近く季節の変化も身近に感じられる。		・居室の入り口には職員の手による名札が掛けてあり、利用者の好みの「のれん」で場所間違いが起きないように工夫されている。
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・家具類は利用者の持込で、それぞれ個性的な部屋作りが来ている。女子寮を改装した建物で、押入れがついた室内は広さも十分である。		・各居室にはエアコンが設置され、ベランダにも出られ、開放的である。洋風・和風と利用者の好みにより住み分けられている。入り口などの段差も引きつづき細心の検討が望まれる。

 は、重点項目。